

# 数学

## <全体分析>

試験時間	120 分	解答問題数	5 題
------	-------	-------	-----

### 解答形式

全問記述式

### 分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・**やや易化**・変化なし・やや難化・難化)

例年、誘導の付かない問題が出題されるが、今年度は5題中4題が誘導なしであった。また、易しめの問題から難しい問題まで出題され、分量も配慮されている。数学の実力差がはっきりと表れるであろう。

### 出題の特徴や昨年との変更点

幅広い分野から万遍無く出題され、レベルが高い。整数と確率は例年、最初と最後に出題される。空間図形の問題も出題頻度が高い。

### その他トピックス

特になし

## <大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	整数	数学A	二項係数に関する不定方程式。 $n$ と $k$ の式を $k$ について平方完成すれば解決する。	標準
2	微分法	数学II	3次関数と2次関数のグラフの共通接線が存在するための条件を求める。最後は、4次方程式の実数解の存在条件になる。	標準
3	空間ベクトル	数学B	四面体の体積の最大値を求める。与えられた条件を満たす点の集合が球の内部 (境界含む) であることが分かれば難しくはないだろう。	やや易
4	数列	数学B	第1象限の格子点に番号をつける数列の問題。(1)の等式の証明がやりにくい。(2)は、(1)を用いれば、典型的な群数列の処理になる。	やや難
5	確率 数列	数学A 数学B	1の目を出した人が勝つというルールの下にA, B, C, A, B, C, ...の順にさいころを投げるとき、A, B, Cがそれぞれ勝つ確率を求める。状況が把握できれば、立式も計算も易しい。	やや易

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

一橋大の問題はシンプルなものが多いが、誘導が少ない分確かな実力が必要である。典型的な問題を理解しマスターしたうえで、過去問の演習によって思考力・計算力も鍛えよう。また、かなり難しめの問題も出題される。初見の問題に対しても方針を立てられるようになるために、良問を考え抜く勉強もしたい。